

## 平成 19 年度宮前区区民会議・明日のコミュニティ部会(第 3 回) 摘録

日時：平成 19 年 7 月 18 日(水) 18:00～

場所：宮前区役所 4 階 会議室

出席者：宇賀神部会長、小林委員長、渡辺委員、三谷委員、永野委員、松井委員、高木委員  
鈴木恵子委員、

関係者 福本委員、渡辺委員、内山博一(平小学校区子ども安全・安心協議会)、  
山近昭三(向丘小学校子ども安全・安心協議会)

事務局：田辺企画調整担当主幹、中山同主査、東同主査、成沢職員  
佐々木こども総合支援担当参事

### 1 開会・事務連絡(事務局)

- ・ 会議の公開について

**宇賀神部会長** こんにちは。本日はお忙しい中、蒸し暑い中、ご参加いただきありがとうございます。今年度 3 回目の明日のコミュニティ部会の会議ということで、渡辺さんと福本さんにつきましては前回に引き続き、町会関係のお話・ご意見を伺うということでご参加いただいています。また今日は子ども安全・安心協議会の取組について山近さん、内山さんにお話を伺おうということでご参加いただいております。ありがとうございます。

3 回の会議を重ねて、おぼろげに糸口と言いますか、宮前区が目指すコミュニティ像が見えてきているのかなと思っております。既存の自治会組織ではなく、小学校区を中心としたフラットな組織から宮前区のコミュニティを形成していったらどうかと考えています。子ども安全・安心協議会は最近立ち上がってきた組織ですが、なかなか有効な組織ではないかと我々も期待しているところです。今日はお話を聞きながらいろいろ意見交換をしていただければと思います。

それでは早速議事に入りたいと思います。まずお話を伺ってよろしいでしょうか。お二方は特に活発に運営されている二小学校区から来ていただいたと聞いています。平小学校区子ども安全・安心協議会の内山さんから、現状や参考になりそうな話などお聞かせいただければと思います。よろしく願いいたします。

### 2 議事

#### (1) 子ども安全・安心協議会の取組について

**内山会長** ご紹介ありがとうございました。平小学校区子ども安全・安心協議会の内山です。よろしく願いいたします。先日佐々木参事から本日参加の要請があり、区民会議やこの部会の資料をいただいて目を通させていただいたのですが、難しいテーマを扱っておられるなと感じました。地域でコミュニティをどうやってつくっていくのか、昔の隣組の延長のような気がしたのですが、ターゲットを絞るのが難しいのではないのでしょうか。今日は本日までの経過を資料にまとめてきましたので(資料 1) これに基づいて説明をさせていただきたいと思います。

最初に協議会の構成ですが、学校、PTA、自治会、青少年指導員、民生児童委員、交通安全母の会、宮前ワンワンクラブなど 45 名の方で校正されております。

2 番目に指導体制ですが、校長と PTA と協議会議長という形で、協議会議長は私が務めています。

事務局は学校の教頭になっております。会則がございませんので、基本的には集団指導体制ということで進めています。共通のテーマである「自分たちの地域から、子どもの不幸を絶対に起こさないようにしよう」に基づいて、様々な活動を目指しています。未就学児も念頭に入れながら、主に小学校3年生以下の生徒を中心の対象に考えています。会議としては、総会があり、その下に運営委員会を設置して、学校とPTAと自治会が一体となって協議をしています。

3番目に（平小学校通学児童）の地域別の状況です。平5,6丁目からは107名の小学生が平小学校に通っています。平日影自治会では一部向丘小学校に通っている児童もいます。けやき平では宮前平グリーンハイツ自治会の児童が大半を占めており、154名が来ています。神木、新神木自治会からは99名が来ています。神木本町2~5丁目は神木本町自治会が中心で220名が来ています。一部南原や上作延、長尾小学校に通っている児童もいます。また、学区外から通っている児童も10名、全体で590名の児童があり、その内3年生以下は299名、つまり約300名です。1学年大体100名ということになります。

4番目に協議会の経過ですが、「設立」は平成18年3月6日です。「会議」は今日まで運営委員会3回、総会3回の会合を開いております。大抵総会の前に運営委員会を開き、どういうことをやるのか協議しています。最初に「子ども110番の増強」を125箇所行いました。それから地域の「パトロール」ですが、これはPTAが全員3つに分かれて地域を周り、自治会は自分達の地域の範囲を回っています。PTAと自治会それぞれ別の活動ですが、お互い道路で良く会う状況になっています。「集団下校」には通常の下校と保護者がひきとりにくる下校とがありますが、今年の5月には全校で学校内24箇所に引渡しポイントをつくり、そこまでは先生が生徒を誘導し、各ポイントでそれぞれの地域の保護者の方々に児童を引き渡すという中間的な集団下校の訓練を行ないました。これは先生が計画し、PTAの私達に説明して今年初めて実施し、先日反省会も行なわれました。「地域別の危険マップの検証」はPTAと教職員が調査作成を行いました。結果についてPTAの校外委員と自治会で現場検証を行い、防犯灯が必要な場所に防犯灯設置の費用を捻出したり、枝が伸びて灯りをふさいでいる木があれば所有者に枝の剪定をお願いしたりといったことにつなげたいと考えています。今年の9月を目標に調査し、年度内に危険箇所の改善に取り組む考えです。また、「集団下校日の訓練日」を平小学校の安全・安心の日と定め、この日に毎年集団下校の訓練を行なう日としました。また、先ほどの危険マップなどの結果を踏まえて「通学路の見直し」も行なう計画です。9~10月に開催予定の「地区別懇談会」の目的はPTAの校外委員、役員と自治会の懇親、意見交換です。これまでは学校とPTAのつながりだけが強く、地域が間に入るのが難しかったことがあります。危険マップの検証結果、通学路の見直しなど共通のテーマで交流を持とうじゃないかという狙いです。平小学校は4地区に分かれておりますので、それぞれの地区で懇談会を開催する予定です。

その他、周辺組織として、平小学校を中心とした避難所運営会議があります。けやき平、新神木、平日影6丁目の方々がこちらの小学校に避難所に避難することになっております。区役所地域振興課の企画で9月には避難所解説訓練を行なう予定です。また、宮前区社会福祉協議会の傘下である地区社会福祉協議会のエリアが今年6月に分割され、けやき平、新神木、土橋で宮前第2地区社会福祉協議会が設立されました。これまで社会福祉協議会を良く知らない住民もいた中、もっと地域に密着した活動をしていこうという目的でした。従来の一つのエリアを3つのエリア分けられています。

指導体制について、集団指導体制で、三者で協議して決めていくということですが、これまで説明したようにそれぞれの立場からの提案を皆で実行していくという体制ができています。

協議会を校正する青少年指導員、民生児童委員、交通安全母の会などは自治会から選ばれた人であり、宮前ワンワンクラブのメンバーも自治会の役員も兼任している人で、お互いは顔見知りであり、縦割りの意識をなくし、横に繋がっていく組織でやっていこうという意識があります。

この部会では新旧住民の差ということも話題になっているようですが、身内意識は無くしていただき、「強調」ではなく「協調」でやっていきたいと考えています。最も大切なのは相手を尊重することです。会長がリーダーシップを発揮して引っ張っていくような組織ではなく、みんなで計画して、みんなで参画し、みんなで責任を取っていく、昔の村組織のようなイメージです。自然に様々な交流が生まれます。既存の組織の方々はこれまでの枠をはずしていただいて、地域全体の枠が成り立つ様にもっていききたいと考えています。既存の組織にどうしても入りづらい、既存の組織が強い、入れてくれないということがないように、参加者がそうした意識をもっていけば良いのではないかと思います。

**宇賀神部会長：**ありがとうございました。すごく頑張っていらっしゃることが伝わってきました。皆さんご質問等もあるかもしれませんが、もう一方、向丘の山近さんから先にお話をいただきたいと思います。

**山近会長** 私の方は内山さんのようにきちんとした資料等はありませんが、これまでの概略や経緯などを説明させていただきます。

神奈川県安全・安心まちづくり推進協議会が平成17年10月に立上げられたことを受け、宮前区でも平成18年3月6日に、安全・安心まちづくり推進協議会の第1回の会合が開催されました。参加団体は行政をはじめ、区内の町内会自治会連合会など、多くの団体が参加しました。この会合で「宮前区安全・安心のまちづくり宣言」が出され、子ども安全・安心協議会の設立が提案、承認されました。その後は小学校区ごとに、どういう形で組織をつくっていったらいいのかを話し合いました。向丘小学校区では、設立の為の会合を開くために、校区内の全ての町会や自治会、マンションの管理組合などに案内状を配布しました。5月15日の第1回会合での参加者は27名でした。まず経緯・趣旨等について説明したところ、快く賛同していただき、「向丘小学校区子ども安全・安心パトロール協会」という名称で立ち上げました。会長、副会長を選出し、事務局は学校が担い、現在は会則もいろいろな意見をいただきながら、検討しているところです。向ヶ丘小学校区子ども安全・安心パトロール教会は、安全・安心まちづくり団体としての登録も申請し、認可されています。活動中の傷害などに保険の適用ができるということで、助かっています。先輩のアドバイスで県の方の設立助成金にも申請し、まだ振り込まれていないのですが、8万円の資金が出るそうです。この8万円の用途は全て報告しなければならないのですが、活動中に着用するベストを買おうということで、業者に見積等お願いして検討を進めています。また、IDカードを学校側で150部作成していただきました。それを今首にかけたり、腕章を着用して見守り活動を行っています。全老連の方からも都道府県の事務局にこうした見守り運動推進の要請がありました。川崎市では7区で9の老人会連合会があり、13団体が運動を行なっている状況です。

活動の実態ですが、五所塚長生（ちょうせい）会という老人会が中心となっています。現在18人の会員で4,5年前から区の一声運動にかかわり、これまで継続して子どもの見守りに取り組んでいます。町会関係や父兄の方々は仕事を持っていて活動になかなか参加できない方も多いようです。各町会には資金のカンパや回覧などの形での協力をお願いしていますが、まだ返事がない状況です。現在全体では6団体から合計83名の方々が見守り活動に参加しています。全ての方がいつも出ているわけではなく、交代制です。向丘小学校には多摩区から通っている児童もいますが、そちらの地

域からも6人ほどこれまで何回か活動にご参加いただいています。

朝の登校時は全児童が8:30までに登校となっていますので、学校区全域で見守りを実施しています。立上げ当時から下校時も見守ろうと取り組んでいます。下校の時刻はバラバラで大変です。4時頃まで当初はやっていたのですが、3年生ぐらいまでが下校すればということで、今は3時過ぎまでになっています。これから暑くなり、見守る方も大変なのですが、最後までできないことを少し心苦しく思っています。

子ども達とも顔見知りになり、お互い声をかけあったり、都合が悪くて出られなかった日に子ども達から「おじさんどうしたの?」と言われたり、コミュニケーションが徐々に進み非常に良い傾向だと思っています。先日下校時に不審者がいると通報があり、警察も駆けつける事件がありました。実際は中国拳法をやっていた青年たちが刀の様なものを練習で振り回していて、実際に話してみると良い子たちで何でもなかったのですが、パトロールの事も含め、今後は協力してもらえように話しました。

5月だったと思うのですが、タウンニュースに活動を介绍する記事が掲載されました。女性の記者がいらして、当日は雨が降ったり風が吹いたり大変だったのですが、3枚の写真が掲載されました。3月には学校に招かれまして、朝礼で全生徒が集まった体育館で我が会の64名が前に並び、子ども達が「感謝の会」を設けてくれました。軍手に花や様々な形の布を縫い付けた子ども達の手作りのプレゼントもいただき、「おじさんお婆さんありがとう」と声をかけていただきました。学校側としても非常に気を使ってくれています。

学校からは毎月の行事表を事前にいただいているのですが、時間帯が書かれていなかったのも、下校時刻がわからないことがあり、「今日は子どもが少ないな」と思ったら、いつもより早く下校していたこともありました。連絡体制の改善を先日校長にお願いしたところです。

午後の見守りは高山若葉会の方が多いのですが、高齢者が多く、暑さも負担になるので、夏場は少し休もうかという話も出ています。各グループの代表者に一度集まって頂いて、今後の分担など話す必要があるかなと思っております。

**宇賀神部会長** お二方ありがとうございます。「子どもの安全・安心」というテーマがはっきりしているということで、協力者が集まりやすい点もあると思いますが、やはり実際に運営していく上での苦労もたくさんおありだなと思いましたが、みなさん質問等がありますでしょうか?

**永野委員** 学校やPTAの場に、地域に方が入り込んでいくことの難しさを良く聞くのですが、お二方の地域は学校にうまく入って、中心になっておられる。何かその点での苦労などはあったのでしょうか?

**内山会長** 舞台裏を話しますと、正に人脈です。PTA会長のお子さんが私の子供と同級生で、私は知らなかったのですが、うちにも何回か遊びに来ていたり、PTA会長の娘さんが自治会長の娘さんと同級生だったり、自然に交流できるような背景がありました。私自身も2年前まで自治会長を務めていまして、各地域の会長さんや防犯部長さんとも面識がありました。また皆さん今回の話にもうまく乗ってくれました。

**永野委員** 意識して縦割りをやめて横へつなく、身内意識をやめるといったお話もありましたが、実際どのような呼びかけなどをされているのでしょうか?

**内山会長** そう簡単にはいきませんが、何回も言う事によって徐々に浸透していくのではと考えています。自治会は民生委員や青少年などの推薦母体にもなっており、本来はみんな身内なのです。各自治会長には胸襟を開き、面子を考えずに自ら寄っていってくれと、繰り返しお願いしています。

「向うが何も言ってこない」ではなく、自分の側からアプローチしていくことが必要です。うまくいかないこともあります。すこしずつ心が通ってくるようになってきたと感じています。PTA との交流は人脈があったということ、「小学生を守るというのは正に“地域が”守る」ということをお経のように何回も言ってきました。

他所の団体が協議会の構成メンバーに入れてくれと言ってくることもあるのですが、どうも名を取るだけで有言不実行の組織、地域に貢献しているんだというような形だけ欲しがっていると思われる組織については、丁重にお断りをしました。この活動は実際のパトロールに参加しなければ意味が無いと思っています。

先ほど説明が漏れましたが、地域のパトロールは月1回、PTA が地域の通学路を中心に行ない、地域では通学路の中のある決まった場所で見守る定点パトロールを実施しています。点と線を含めて、通学時の児童を見守っています。

来年は参加組織同士のネットワークを充実させようという話も出ています。先日父親参観日が週末にあり、月曜がお休みだったのに、知らずに見守りで立っていたことがありました。学校行事の際や時間の変更があった場合の連絡が互いにスムーズにいくようにしていくことも課題です。

**宇賀神部会長** 山近会長さんの方では人集めなどで苦労されたようですが、PTA との打ち合わせ等は活発に行なわれているのでしょうか？

**山近会長** これまで立上げの時も含め、自主的に3回の打ち合わせをもちました。PTA や校外委員にも集まっていたいて話合いました。今後の活動についてもまた話合っていきたいと考えています。見守りは実際に人が動かなければ意味がなく、組織に名前だけ連ねても仕方ありません。PTA や校外委員は学校に顔を出すのは入学式など年数日だけということも多いようです。役員になる人は他の組織でも役務を兼任されている方も多く、仕事も持っていたりし、定期的に決まった時間に参加するのは難しい状況があります。担い手の大部分が高齢者なのが実体で「今の体制でいつまで続けられるのか？」とか「金をもらっているのか？」と聞かれることもあります。今後は少しずつでも活動への理解を含め、互いにねぎらいの言葉を掛け合えるような形が理想です。

**宇賀神部会長** 活動は基本的には強制ではないですね。そこが難しいところでもあります。

**山近会長** 強制ではありません。犬の朝の散歩の時だけでも、札をかけて参加してくれとお願いしたら、「そんなのいらぬ」と言われたこともありました。民生委員や青少年指導員には働いている方が多く、なかなか協力が得られていないのも事実です。会合の度に徐々に話していくしかないと思います。

**三谷委員** 宮前区は21万人の人口がありますが、多くは比較的新しい地域です。コミュニティの希薄さを改善していかなければ、今後非常に寂しい地域になってしまう。区全体で考えるのではなく、17の小学校区単位で考えた時、今日お越しいただいた2地域で子ども安全・安心協議会が非常に活発に動いているということでお話を伺ったのですが、うまくいっている地域の事例を聞くことによって、それが他の地域でも活かせるのではないかと思います。平小は創立が比較的新しい学校で、向丘小は区内で最も古い学校ということで、両極端なのを興味深く思いました。平小では学校・PTA・地域の3団体で、相互信頼尊重しながら運営されているということで、独自性を感じました。向丘小では、老人会の方々が主力になっているということで、弱冠お悩みもあるようですが、非常に心強く思いました。組織の作り方や母体、担い手については、他の地区が参考になる面があると思います。

まだ活動が始まったばかりではありますが、今後活動の継続性なども考えますと後継者問題も出

てくるのではないかとと思いますが、どうでしょうか？また学校の協力がうまく得られない場合などはどうしたら良いと思われますか？

**内山会長** ご質問の答えになるかわかりませんが、最初はなかなかうまくいかないのが本当だと思います。私はやはり集団責任体制が重要だと思います。誰か一人がリーダーだったり、長となると「俺に話しが無かった」というような話が出てきたり、周りもなんとなくその人にまかせたり、押し付けたりしてしまいます。気が付けば後ろには誰もいなかったということになりかねません。責任も権力も集中させないことが必要です。また地区の社会福祉協議会との連携を今後ぜひ深めていきたいと考えています。有言実行の協力体制をつくりたいです。避難所運営会議など今後具体性が求められる組織も地域にあります。今、横のつながりを広げていく意識を常にもっていかねなければうまくいかないと思います。学校に対してもきちんと責任を明確化させています。校長が忙しくて会議に出席できなければ、必ず代理で教頭などに参加してもらい、そこで決まったことは学校側にも責任を持ってもらうということを明確にしています。

**山近会長** 学校側も責任をとるのは当然ですし、その認識は持っていただいていると思います。学校の子ども＝地域の子どもということを共通の認識にしていく。そしてお互いの活動を尊重し、ねぎらいの言葉を掛け合えるようになれば良いと思うのですが、学校の態度を冷たく感じてしまうこともあり、なかなかそうはなっていないのが現状です。しかし、そんな思いや、何か要望があればできるだけ遠慮せずに学校側に伝えるようにしています。下校時刻や学校行事の連絡についてもまだすれ違いが度々あります。先日も夏休み中に1週間だけ課外教育があるので、その時の見守りをお願いするかもしれないという話がありましたが、今日まで連絡がまだ来ておらず、頼まれてもこれから体制を組むのは難しいかもしれません。

後継者については、若い世代は仕事で参加が実質的に不可能なことも多いと思いますが、誰か一人でも参加していただければそこから広げていきたい思いがあります。しかし実際には、何か言うことやらなければならないから、口も出さずに一歩下がった状態で見ているだけの人が殆どです。

**福本委員** 地域と学校でかなり温度差があるのが実態だと思います。学校関係の集まりは地域から見ると内輪で外から入りにくい面があります。私の地域では、自治会の方から見守りの体制について、協力の用意がありますよ、「何名出してくれ」という具体的な養成があれば、出しますよ、と書類まで提出しましたが、今日までなしのつづです。子ども110番の話が来た時は、依頼が受けた1件1件に対して生徒から直筆の手紙が来た事もあり感心したのですが、、

**渡辺委員** 私の地域でもなかなか学校との関係がなかなかうまくいっていない。卒業式や運動会には自治会として参列していますが、それ以外の場面での学校との接触が極めて少ない現状です。まだ一生懸命やっている途上にあります。

資料についてですが、神木本町の一部の生徒が通っているのは上作延小学校ではなく、向丘小学校です。また協議会の構成メンバーのところで、自治会から会長、防犯部長、敬老会合わせて14名ということですが、4地域から会長、防犯部長がそれぞれでいて、残りの6名が敬老会の方と考えて良いでしょうか？

**内山会長** 必ずしもそうではありません。地域によって異なります。

**渡辺委員** 向丘小学校区のお話を聞いて、老人会のパワーを活用しないとやはり難しいのではないかと感じました。私自身もこの4月から地元の老人会に参加しているのですが、今日も朝から集まって森林公園の花壇の草むしりをしていました。非常に元気でパワーがある。何かあると30人くらいすぐ集まります。

**山近会長** 老人会に全てもってこられても困るのですが(笑)。老人会のメンバーもいつも出られるわけではありません。来られないメンバーがいた場合は、そのグループの責任者にまかせて誰かが代わりに入るような体制をとるようにしています。

**渡辺委員** 83名というのは老人会の方がほとんどなのでしょうか？

**山近会長** そうです。

**宇賀神部会長** 内山さんのお話で、従来の縦型の組織を横につなぐ努力を非常にされていると感じました。しかし壁のあつさをすごく感じるように思う。縦を横にするのは本当になかなか難しい。

**鈴木委員** 私はPTAから出発して、今は地域で、グループで活動しています。老人会はもちろん、様々な組織と連携しながらやっています。地域には40~50代のPTAのOBの方がいらっしやると思います。その女性パワーをもっと活用していきたいと思います。地域の学校に子どもがお世話になったというのは貴重なつながりです。そうした方達が今どこにいるのか、把握していないことが非常に多い。私の家にも子ども110番の依頼などの話が来たことはありません。私の周りの仲間の中のPTAのOBの方々も同様です。話がくれば協力する人はいるはずですが、地域を組織で見ているのではなく、人のつながりで見っていく。そうしたほうが動ける人材を捕まえられるのではないのでしょうか。例えば福本さんが学校に行っても。うまく話が通じないのは、つながりができていないのが原因だと思います。組織だけでなく人脈でつないでいけば、いろんな年齢層の人達も関われると思います。

**内山会長** PTAのOBは手強い。だからなかなか寄り付かない。うちにもPTAのOB会があるのですが、とても強い組織です。老人会もまた強い組織で、なかなか自分たちのやり方を曲げることない一面があります。

**鈴木委員** 私もPTAのOB会には入っていません。OB会という組織で捕まえるのではなく、関わってくれそうな人を一本釣りで捕まえる。卒業生がいる家は地域にいっぱいあるはずですが。

**山近会長** 卒業した途端「やっと終わった」ともう関わらない人が多く、卒業後も地域の事をやっていこうという発想はあまりありません。地域のことを真剣に考える人は少ないのが実情です。

**内山会長** PTAの役員OBは私の地域でも狙ったのですが、引き受けてくれる人はあまりいませんでした。

**鈴木委員** 卒業したばかりの人はやはりやらないと思う。少し時間がたった人はどうでしょうか。子育ての分野でも、おばあちゃんたちが結構力になっています。PTAでも孫のために参加しているおばちゃんが増えてきています。

**小林委員** このまま運動を続けていけばうまくいくと思っていますでしょうか？また、うまくいかないとしたら、どこが問題でしょうか？また、避難所運営会議や将来的なテーマとしての防災との関係はどのように考えているのでしょうか？

**内山会長** 今は坂を上っている方向です。景気の良いときに景気が悪いことは考えない。「いつまでやるんだ？」というような声も出始めてはいます。活動を続けていくことには、肉体的な負荷もありますので、ローテーションなどうまく組んで、一人ひとりの負担を軽くするように努めています。

避難所の運営会議についてはすでに足かけ3年ほど定期的にやっています。この会議の中には校長も施設責任者として入っており、PTAも入っています。生徒が在校時に災害発生した場合の想定も2年半ほど前からやっており、安全・安心協議会よりも先に動いていた経緯があります。

**松井委員** 安全・安心を得るためには、地域が共同しているいろいろなプログラムを消化していることが必要だと思います。例えば、盆踊りやお祭りをよくやっている地域、ある目的の元にまとめられる地域

は、結果的に安全・安心も良い活動ができてくる。違うことを目標にしても、地域の活動というものとはつながってくるのではないかと考えています。また、地域への愛情や誇りを持てるようにならないと活動に関わる動機も生まれてこない。地域としての文化度をあげていく。地域の人材と組んで進めていくことは非常に難しく、時間もかかるとは思いますが、そうしてやっていくことが安心・安全につながる。

私の団体でも学校を絡ませて、学校との距離を近くし、学校と協力しながら、色々なプログラムを組むようにしていますが、それは何かあったときに役に立つのではないかと考えているからでもあります。そうしたグループがたくさん地域にあると良いですね。一つのつながりではなく、多様なつながりが絡み合う。また、活動を自分が楽しめる、自分の為になっていると思えないと長続きしません。活動が重荷になってしまえば続かない。いつも頭を悩ませているところです。

**高木委員** 地域文化という意味では、初山では自治会として獅子舞をやったり、お寺さんの万灯をやったりしています。宗教的な事業には自治会は関われないということで、獅子舞は保存会を別につくって組織を地域と一度分けてしまった経緯がありました。しかし、今はそれを「文化」ととらえて自治会がどう関わっていけるか、どうやってコミュニティを広げていけるか考え始めています。8月には十王堂で閻魔様のお参りという行事があるのですが、今これに自治会の暮らしのセミナーの出張講座で閻魔様に絡めた落語を呼んで人を集めようという試みがあります。その他、お寺でも越路吹雪さんとシャンソンを楽しむ会など文化的なことから人を集めるイベントが企画されています。従来地域から切り離してしまったものを、人を集めるしくみと絡めてしかけづくりをする。そういうことからやっていかないと地域を愛せなくなっているように思います。町会も直接関わっていくのは難しいことでも、人を集めるしかけづくりとしてなら関わりやすい。

活動の参加者ですが、時間がとれる方というやはり老人になってしまう。青少年指導員や母の会のメンバーになっているような方でも実際に集まり、活動できるのは年数回だけという方も多い。団塊の世代も含め、どう地域の活動に引き込むかが、やはり最も難しいところであり、重要なところだと思う。自治会でうまくやっていきたい。また勉強です。

**山近会長** 活動は続けることが重要です。地域に帰ってくるという団塊の世代もターゲットにして、自分が死んだ後も継続していける体制を作りたい。どの時代も子供たちは常に地域にいる。今の子どもたちだけでなく、5年先、10年先の子どもたちも見守っていく思いで活動しています。

**小林委員** 内山さんにお聞きしたいのですが、活動資金はどうされているのでしょうか？

**内山会長** 助成金や補助金の申請も考えてはいたのですが、結構自治会がリッチなようで、それぞれで自主的に負担しているようで、資金に関する要望や発言は今のところ無いです。

## (2) 今後の課題解決に向けた審議について

**事務局** 今後の審議の仕方ですが、この部会は昨年度からの継続で、これまで都合5回の会合を開いて意見交換をしてきました。みなさんの任期が今年度いっぱいということで、限りもあるので、年度内にある一定の形を成果として出したいと考えています。スケジュール的なことは正式には今月末の企画部会で話し合い決定しますが、事務局の案では今後の全体会を8月10日、11月、2月の開催で考えています。2月の最後の会を2年間の総括の会として、逆算して考えますと、11月の区民会議には部活としてのまとめができていくと良いと思います。昨年のように区民会議からの提案という形ができれば、総括にもつながりやすいと思います。8月の全体会は本日までの議論の進捗報告が良いと思いますが、以降は事務局からのこれまでの議論を踏まえた投げかけもさせていただき、

まとめを意識した検討を進めたいと思います。参考資料として、昨年の高齢者部会、子ども部会での議論ペーパーを配布しています。同じような形がこの部会に相応しいかどうかも含めて、皆様の意見を伺いたいと考えています。

また、地域防災部会の検討経過の資料も配布させていただきましたが、「顔の見える関係の強化」というところで、明日のコミュニティ部会で検討していくという形で整理をしていますので、これについてもご意見があれば、いただければと思います。

**宇賀神部会長** 事務局からのお話のとおり、日程的な区切りを意識した進行が必要です。明日のコミュニティ部会としては、テーマが掴みにくい一面もありますが、11月に向けてまとめをしていくためにも、これまでの議論の整理がそろそろ必要だと思います。いかがでしょうか？

**内山会長** 高木委員から文化的なコミュニティから起こしていくという話も出ましたが、ぜひそれを自治会を巻き込んでこれをやっていっていただきたいと思います。自治会は区民の70%が加入している、最も大きな母体です。老人会もやはり自治会員の一人です。私の地区では老人会を自治会から離すかどうか議論となったこともありましたが、そうなりませんでした。

また取組の提案をする時は、町会自治会連合会の会合に報告して終わりというのではなく、理解がありそうな地域、うまくいきそうな地域はぜひ一本釣りで直接声をかけていただきたい。縦割りの組織の上の部分で報告してどうでしょうか？と話すだけではせっかくの検討内容も死んでしまいます。検討を活かし、実践につなげるためにはターゲットを絞ることが必要です。全ての地域が足並みをそろえて同じようにやる必要は全く無いと思います。

**三谷委員** この部会のゴールをどこに求めるか、次回お話したい。あと会合が何回できるかを明確にし、ゴールを明確にする。提言書を一つのゴールとするのか、動きやすいように的を絞るのか。作業の時間は充分あると思う。17の小学校区をゾーンにしていこうということが決まっている。

**小林委員** テーマは大体決まっている。子ども、安全安心を基盤に防災などにも触れたい。高齢者は地域包括センターがあるが、範囲が広すぎると思っている。テーマがある程度絞られているので、あの地区にはこういう人がいるよということころまで、地域での働きかけがしやすい形までもっていくことをゴールにしたい。

**宇賀神部会長** やはり最も重要なのは人脈でしょうか。

**三谷委員** 人材についても、PTAのOBなどいろいろなシナリオが出てきた。私は17の地域の個性化ということが最も重要だと思う。担い手についても、薦め方についてもそれぞれの地域の独自性があるといい。これまでの話合いでは商店街が出てこなかったが、私は、商店街は地域活性化に非常に重要だと思っています。

**小林委員** やれる地域から取組んでいき、それを飛び火させていくという形で良いと思います。

**宇賀神部会長** 11月にまとめることを目標にそれまで必要に応じて月1回ほどの会合を開いていきたい。次回はゴールを定めるための課題整理を行いたいと思います。

**永野委員** 次回の8月の全体会の報告はどのようにするのでしょうか？

**高木委員** 経過報告ですから、事例を聞いたことを報告し、今後の検討のための整理をしていくことを説明すれば良いと思います。

**宇賀神部会長** 全体会での報告は経過報告ということで、部会としての次回の会合はそれ以降8月下旬あたりに日程調整の上、開催させていただければと思います。

### 3 その他

**小林委員** 以前話の出ていた参事の方々との話し合いや意見交換の場についてもそろそろ日程の設定をお願いしたいと思います。参与の方々に何をさせていただくか、していただけるのか、話していきたい。

**事務局** 参事との意見交換会は、日程調整等難しいかもしれませんが、進めていきたいと思います。事務局としては、次回8月の全体会の前にやってはどうかという案も出ています。

**小林委員** ただの交流会、意見交換会ということではなく、ある程度テーマを決めて、何ができるかというところ、解決策や実践につながるところを少しでも詰めるような会にしたいと思います。